

2022年4月特別例会報告

開催日 2022年4月16日(土)
集合場所 つくば市大池公園
集合時間 9時00分
開会式 9時00分～9時15分
コース 大池公園(09:15)→山口コース(1)→宝篋山山頂(10:45～11:00)
→小田城コース→小田城(昼食 12:20～12:45)
→りんりんロード→多気太郎五輪塔→北条地区歴史散策
→平沢菅衙跡→大池公園(14:40)

距離 20km (実質 16.2km 山登り加算)
参加者 19名
天候 曇りのち晴れ

ウォーキング状況

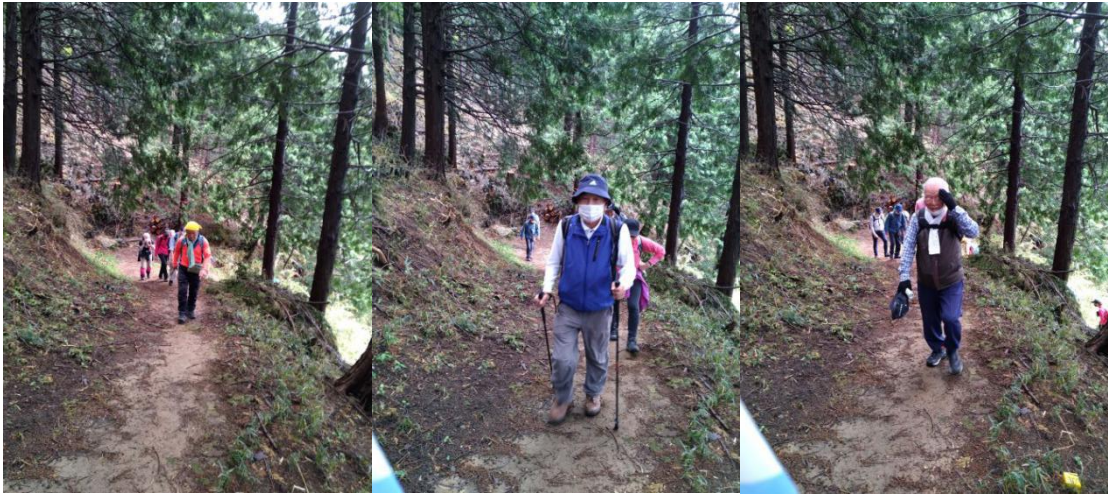
前日の台風1号の影響で参加の皆さんが自宅を出発する時は風と雨が残っており少し心配をしましたが、集合時間になるとそれも止み、気温も少し低めで、絶好の山登り日です。



準備体操終了後、山口地区を通り山口コース(1)へ、舗装道がなくなると、いよいよ山道に入り、登りが始まります。看板には頂上迄3.4kmの案内があります。緩急の登りが続きますが、皆さんの会話の声は大きく余裕たっぷりの出足です。

直ぐに、山口(1)と山口(2)コースの分岐に到着。左にコースを通り沢を渡り、ここから谷筋から尾根筋への登りになり、このコースで一番きつい登りとなります、やっと山道に来たと張り切って登りを楽しみ、難なくクリア。

その後、水場を通り見晴らしの良い所で眼下を楽しみ、更に少し登ると万博記念の森公園に到着、小休憩です。



唯一のきつい坂も難なくクリア



万博記念の森公園で休憩

万博記念の森公園から直ぐの分岐は林道方向に向かい、少し歩くと表筑波スカイラインからの林道にでました。ここは小町山から宝篋山へのルートでもあります。

ここまで来ると、山頂は直ぐで、放送中継所の舗装道を登り山頂到着です。

天気は青空となり、筑波山、霞ヶ浦、遠くにスカイツリーが見渡せる絶好の登山日となりました。



宝篋山山頂での記念撮影（バックが筑波山）

下りは、小田城コースで約1時間、昨日の雨の影響を心配しましたが、それほど影響を受けず、鬼ヶ城展望所を経由して、小田城址に無事下山しました、

ここで昼食後、八重咲の桜が咲く、りんりんロードを北条地区へ。多気太郎の五輪塔、無量院、日向廃寺跡、平沢官衙跡等を見学し、予定時間より約30分早く無事ゴールできました、ご協力に感謝します。

松崎 寛 （記）

北条地区は非常に歴史の古い町で、その説明の補足を次ページに記載しましたので、興味のある方はご覧下さい。

北条地区案内の補足説明

登場人物

多気太郎義幹

桓武平氏の流れを汲み、桓武天皇の子葛原親王から数えて十一代に当たる。六代維幹が水守より多気城（現北条城山）に移り初代城主となる。義幹（多気氏）の兄弟は下妻氏、東条氏、真壁氏となっているので、つくば一帯を支配していたと思われる。

八田知家 小田氏の祖

宇都宮氏の流れで、茂木の出である。姉が源頼朝の乳母（寒河尼）であり、頼朝と非常に近く、常陸守護となり、鎌倉十三人合議制の一人である。

建久4年の変

源頼朝主催の富士の巻狩りの際中に曾我兄弟の仇討ちが発生する。同じ常陸国の武士であった八田知家は策を巡らして「八田知家が多気義幹を討とうとしている」と流言を流し、これを知った義幹が多気山城に兵を集めると、今度は知家は義幹の許に使者を派遣して「頼朝のいる富士野で狼藉（仇討ち）が発生したので富士野へ同道して貰いたい」と要望すると義幹はいよいよ噂が事実であると考えて防備を固めた。これを見た八田は6月12日に「多気義幹の謀反」を鎌倉幕府に訴える。幕府は八田と義幹を鎌倉へと召喚し、22日に両者を対決させた。八田は仇討ち事件の事を知って義幹に富士野に駆けつけようと提案したところ、義幹は兵を集めて多気山城に立て籠もり叛逆を企てたと主張した。これに対して義幹は反論したものの、彼の主張は「意味不明」とされた上に実際に兵を集めて立て籠った事実は否定できず、義幹の所領と所職は没収されて同族の馬場資幹に与えられ、義幹は岡部泰綱に預けられることになった。これを機に、肥沃な筑波の南麓一帯が八田氏の所領となり、八田氏は下野から多気のすぐ南の小田に本拠を移し、後には小田氏と称するようになる。

翌年には下妻氏も滅ぼされている。

日向廢寺跡

この地は、平安時代末期から鎌倉時代にかけての寺院跡で、現在の地名をとって日向廢寺跡と呼んでいる。建物跡は中央堂を中心に東西に回廊をもつ阿弥陀堂建築で、京都の氏平等院鳳凰堂に似た全国的にも珍しい寺院跡である。建物跡は中央に東西三間、南北四間の仏堂があり、そこから複廊が東西に伸び、その先端から単廊が南につき出ている。礎石は雲母片岩が主であるが、中央堂では花崗岩製の柱座造り出しを有するものがまじっている。この建物は火災で消失したようだが、その後規模を縮小して東西三間、南北四間の小堂が再建された形跡がある。

出土した瓦は巴文軒丸瓦、剣頭文軒平瓦などであり、その様式から十二世紀後半に位置付けられる。

当時、茨城県南地方に勢力を持っていたのは常陸平氏の多氣大掾氏である。多氣氏の本拠はここ北条にあった。付近には多氣氏第六代義幹の墓と伝えられる五輪塔がある。おそらくこの日向廢寺も多氣氏によって造営されたものであろう。